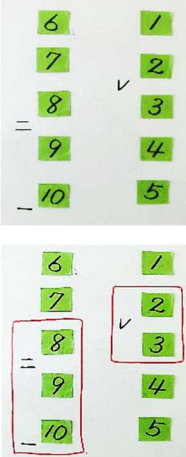


中学校	自分に合った方法で、板書やメモをとるための指導
<p>★対象生徒（自閉スペクトラム症）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変まじめで、板書をすべて書きたいが、時間内に書き終わることができない。 ・音楽（歌唱）が大好きで、もっとうまくなりたいという意欲を持っている。 ・学級全体への指示では理解できないことがある。親しい友達に尋ねることはできる。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き終わらなかった板書は、写真に撮ったりノートを借りたりして書くことができる。 ・指示をメモしながら聞くことができる。 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①国語の漢文</p> <p>○1年次の内容理解が不十分であるため、通級教室には1年の教科書と基礎の学習（ワーク）を準備し、あやふやな点はすぐに振り返ることができるようにする。</p> <p>○レ点、一二点など、いきなり漢文を見て考えるのではなく、黒板に漢字に見立てた数字を書き、そこに返り点を打ち、規則を覚える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レ点・・・レ点の前後の数字を○で囲み、この文字がひっくり返ることを目で確認する。 ・一二点・・・二点の上の数字から一点の横の数字までを○で囲み、この部分がひっくり返ることを目で確認する。 ・両方が混じったもの・・・文字の上部から順に規則を当てはめていき、正しく読めるように確認する。  <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 通級教室では、はじめはメモを取るよう促したが、慣れてくると自分でメモを取ることができるようになった。メモを書くスピードも少しずつ速くなってきた。メモができるようになったことで、安心して授業が受けられているようである。 ★ 教科によっては、穴抜きのワークシートに記入したり、タブレットに意見を書き込んだりと、学習活動が多様である。生活のリズムが安定せず、朝から授業に参加することは難しいが、授業に出られた時には、教科書にアンダーラインを引く、重要語句に赤丸をつけるなど、少しの時間でできるような印をつけておき、後で確認できるような習慣をつけさせたい。 ★ 一人1台のタブレットがあるので、時間内に書ききれなかった板書を自分のタブレットで写しておき、自宅でゆっくり書くように話してみたが、周りの目が気になり実施できていない。担当教員に写してもらえよう依頼するなどして、支援を工夫していきたい。 	

中学校	アルファベットカードや読みのルールカードを活用した指導
-----	-----------------------------

★対象生徒 (自閉スペクトラム症)

★対象児の特徴

- ・ 英語の読み書きが苦手で、英語の基礎的な知識が定着しづらい。
- ・ こだわりや思い込みが強く、学習面においても、新しい内容を受け入れられるまでに時間がかかることが多々ある。

★目標

- ・ フォニックスの1文字1音のルールと、音の足し算によって音が変わることを学習し、ルール通りの単語を読んだり、つづりを暗記したり、正しく書いたりすることができる。

【自立活動2心理的な安定ー(1)障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

1 1文字1音ルールの学習

- ① フォニックスルールのチャンツを聞いて、1文字1音のルールに慣れる。
- ② 音を聞いて、そのアルファベットカードを選ぶ練習をする。
- ③ アルファベットカードを見て、その音を言う練習をする。

2 音の足し算による音の変化の学習

- ① 1子音+1母音の音の変化を、ルールカードを見て声に出して言う練習をする。
- ② 1文字ずつのアルファベットカードを自分で動かして2枚にし、その2文字での読み方を言う練習をする。
- ③ 音の足し算の一覧表（読み方なし）を見て、声に出して言う練習をする。

母音	a	e	i	o	u
	あ	え	い	お	う
j じゅ	a あ	→	ja じゃ		
	e え	→	je じえ		
	i い	→	ji じい		
	o お	→	jo じょ		
	u う	→	ju じゅ		

3 単語の読みへつなげる

- ① 「英単語学習ワーク」（「通級読み書きアセスメント～中学校版～」東京都教育委員会）を活用して、単語の読みとつづりにつなげていく。
- ② 「'a' で始まる単語テスト」で、ルール通りの単語を「①読む練習」「②音を文字にする練習」「③英語を聞いたり見たりして、日本語の意味を言ったり書いたりする練習」「④日本語を見て英語で書く練習」の4段階に分けて、単語を覚える練習をする。

[児童生徒の様子、成果]

☆「読み方にはルールがある」と納得でき、単語を覚える練習もスムーズにできるようになった。

★「'a' で始まる単語テスト」の一連の流れを行うと、単語を覚えて書くことができるが、暗記して次に生かせるまで定着しない。

★文法の学習をするときに出てくる、ルール以外の読み方をする単語に関しては納得がいかず、学習意欲が極端に低下する。

高等学校	自己理解を深め、安定した生活を送り、就職に向けての準備を支援する指導
<p>★対象生徒 (ASD・聴覚過敏)</p> <p>★対象児の特徴</p> <p>自分の感情を言葉にすることが苦手であり、困ったときにSOSを出すことができない。また就職を希望しているが、自分に何ができて何ができないのかを分かっておらず、自己理解が進んでいない。聴覚過敏に関して昨年度ようやく自覚が出てきたばかりで、対処方法がまだ手探りの状態である。</p> <p>★目標</p> <p>①自己理解を深めて、SOSを出せるようにする。</p> <p>②就職に向けての様々な準備を自ら把握し、計画を立てて実行する。</p>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①自己理解を深めて、SOSを出せるようにする</p> <p>対象生徒と話をしていくうちに、すべてのマイナスの感情を「怖い」と表現することに気づき、感情を表す言葉を付箋に書きだした。「新しいクラスはどれ？」と付箋を選ばせると、「怖い」ではなく「不安だ」ということに気づく。「怖い」と「不安」では言われた人は感じ方が違うのだということも話し合った。また同じように自分にとって苦手なことを書きだして、嫌だと感じる順に並べ替えると「急な予定変更」が一番苦手だと気づく。それが生じないようにするには誰にあらかじめ伝えておけばよいのか…など、具体化・可視化することで自己理解とSOSの出し方を一緒に考えていった。また聴覚過敏に関しては、耳を覆う大きなイヤーマフを文化祭など校内がざわざわするときに試してみたり、小さなイヤープラグを授業中に試してみたりしている。</p> <p>②昨年度からアルプスかがわのプログラムに参加し、何が苦手で何が得意なのかをアセスメントしていただいた。その上で本校の進路指導部(就職)とも連携し、対象生徒ができそうな仕事を生徒や保護者に提示してもらった。さらに具体的に想像することが苦手なので、就職先を決める前に保護者と共に実際に職場見学に行き、その上で応募するかどうかを決定した。面接の練習なども一緒に行い、また入社試験の前には不安が高くなるので何度も面談を行った。内定をもらってからは就職先が「体力づくりを！」と目標を出してくれたので、現在はそれに向けて頑張っている。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>進路決定をしなければならない最終学年になったが、通級1年目から少しずつ就職に向けた準備をしていたということもあり、様々な機関や先生方、保護者の協力のもとで、落ち着いて自分に合った就職先を決めることができた。通級開始当初は心理的な不調を自覚することができずに、身体的な不調(腹痛やめまい)で訴えかけてきていたが、今では自分から相談に来ることができるようになってきた。また「余暇を楽しむ」ことも一緒に考えたので、ストレス解消の方法も身につけつつある。卒業後の相談先を確保しつつ、卒業までもう少し、みんなで見守っていきたいと思う。</p>	

高等学校	自分の話し方を認識し、聞き手に伝わる話し方の習得に向けた指導
------	--------------------------------

★対象生徒 (自閉症)

★対象生徒の特徴

- ・時や状況を考えず、自分が話したいことや質問したいことを一生懸命話す。
- ・話したい気持ちが先行して非常に早口で話したり、話にまとまりがないため、聞き手に伝わりにくく、何度も聞き返されることで自身もストレスを感じている。

★目標

- ・話し方や声のトーン、話す順序などを考慮して相手に伝わる話し方ができるようになる。

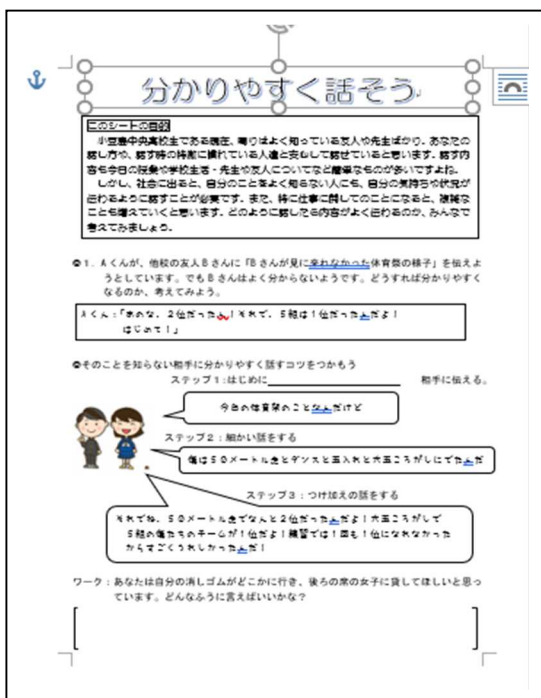
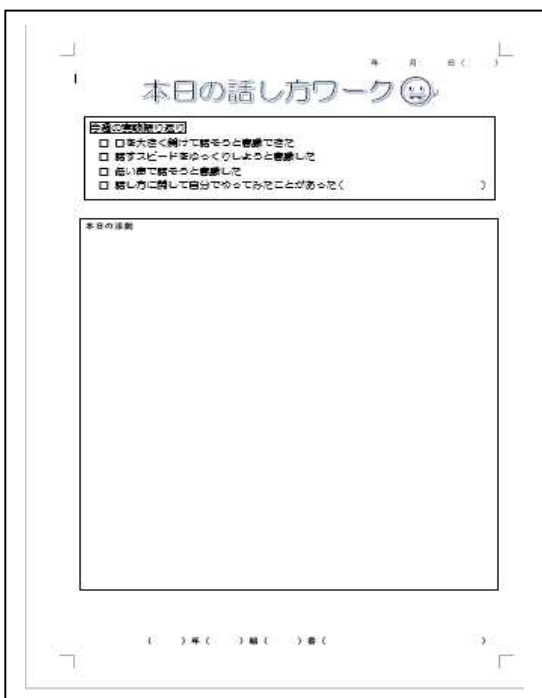
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容や指導方法]

- ①自分の話している音声をタブレットで録音して聞くことで、自分の話し方の特徴や速さを認識する。その後、話すスピードやトーンに気をつけて話した音声も同様に録音して、その違いを確認する。
- ②ワークシートを使い、自分の意図が伝わる話し方について考え、ロールプレイする。

[児童生徒の様子、成果]

実際に自身が普段話す様子を聞き、スピードが速いことに驚いた様子であった。ワークシートでは話す順序や展開を考えることにより相手に伝わりやすくなることを理解し、ロールプレイで定着を図った。日常生活への般化には時間がかかりそうではあるが、話し方ワークを毎時間行って定着させたい。

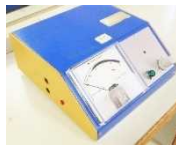


小学校、中学校

言語障害・難聴に関する課題への指導

小学校	スモールステップで楽しみながら取り組む、発音と協調運動の指導
<p>★対象児童 低学年（機能性構音障害・発達性協調運動障害）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解力、思考力はあるが、「ラ行」「ツ」の正しい発音が定着していない。 ・枠内に文字が入らない等、手と目の協応が苦手であるが、視覚認知は比較的高い。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ラ行」「ツ」の正しい発音を定着させる。 ・目と指の巧緻性を高め、枠内に文字を書くことができる。 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①発音指導</p> <p>○単音での定着を最重視し、スモールステップで自信を持たせながらステップアップする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ラ行」の構音位置を、口腔内の模型を使って分かりやすく指導し「ラ」を定着させる。 ・「ラ」のつくことはカードで、一語ずつ丁寧に練習する。 ・「リ・ル・レ・ロ」「ツ」も上記と同様に、単音でしっかり定着した後、「単語→文→文章」とステップを踏んで、練習する。 ・教科書の音読で「ラ行」「ツ」に印をつけ、発音に気を付けながら練習する。 ・会話で自然な発音ができるときに、フィードバックして称賛し、定着できるように励ます。 <p>②微細運動（手と目の協応）</p> <p>○視覚認知は比較的できていたので、鉛筆の動きがスムーズになるように、楽しみながらできる練習を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点つなぎ…いろいろな動物や形が完成するプリントで、鉛筆をスムーズに動かす練習を積み重ねる。 ・線模倣…斜めや回転、曲線等手本の線を模倣することで、見通しを持って文字を書く練習をする。 ・マナー豆（株アイアップ）…豆つかみを楽しいバリエーションで行い、巧緻性を高める。 <div data-bbox="1043 853 1355 1081" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1139 1518 1385 1693" data-label="Image"> </div> <p>著作に関する情報（出版社や、監修者等の記入をお願いします。） 〈発売元 株式会社アイアップ〉</p> <p>[児童の様子、成果]</p> <p>★模型を使って分かりやすく構音の位置を伝えたことで、舌の位置を具体的に理解し、効率的に正しい発音を定着することができた。</p> <p>★文字を書くことにこだわらず、楽しさを工夫したことで、苦手な活動に根気よく取り組み、巧緻性が少しずつ高まり、枠内に文字を書くことができるようになった。</p>	

小学校	自分に合った話し方を見つけ、読んだり話したりする指導
<p>★対象児童 高学年 (吃音)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 文の初めが苦手な発音の文字の場合、言葉につまってすぐに発声できないことがある。 話し出すとき、「えっと」「あー」などのことばが、繰り返し出てくる。 学級では、みんなの前で積極的に発言しており、自分の意見を言うことができる。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の話し方と向き合い、自分の話し方の長所や短所を知る。 自分に合った話しやすい話し方を見つけることができる。 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①発声練習</p> <p>○リラックスして声を出せるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 舌の体操やストレッチをする。 (ゆっくり読む、リズムをつける) <p>②音読練習</p> <p>○「えー」「のぼす」「あの」「くりかえす」「んー」などの指示を書いたサイコロを使い、わざと吃る経験をし、吃ってもよいという雰囲気を作る。指導者も一緒に参加し、安心できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 短い詩や、リズムや響きのよい詩、楽しくなるような詩などを教材として選び、1文ずつ交代しながらサイコロの指示に従って読む。 「あいさつをするときの文」「動物の動きを表す言葉を使った文」「スイーツ」など、どんな言葉が苦手か、どんなものが好きかなどを話しながら一緒に文作りをする。その文を使い、サイコロの指示に従って読む。 <p>③自分に合った話し方を見つける</p> <p>○教科書の文を読み、つまったり、苦しくなったりしたところについて、読みやすい読み方を一緒に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 強弱をつける。得意な文字を強く、苦手な文字を弱く読む。 リズムをつける。 苦手な文字が読み始めにならないように、息継ぎをするところを考える。 <p>◎得意な言葉や読み方をいかせるようにする。励まし、称賛の言葉を伝える。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 一緒に音読したり考えたりすることを通して、自分の話し方で苦手なことや得意なことを話すようになった。 ★ 吃って読んでいたところを、自分で読み方を工夫し、読みやすくなったとき、とても喜び、人前で話す自信につながっている。 	

小学校	興味のあることから、正しい発音や言葉の意味理解を深める指導
<p>★対象児童 低学年（発音指導）</p> <p>★対象児の特徴</p> <p>保護者の主訴：「発音が悪く、言っていることが分からない。 さらに説明が上手くできないので言いたいことが伝わらない」</p> <p>発音検査：カ・ガ行音→タ行音に置換（すいか→すいた ケーキ→テーキ ごはん→どはん）</p> <p>サ・ザ行音→シャ行音に置換（ばす→ばしゅ そば→しょば ぞう→どう）</p> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カ行音、サ行音を正しく発音することができる。（段階的指導） ・会話の中で、自分の言いたいことを相手に分かるように伝えることができる。 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① カ行音「カ」の単音→単語「カ」のつくことば→「カ」が入った短文の練習 (S インジケーター →)</p>  <p>② サ行音「ソ」を練習するにあたって、ことばを正しく聞き分けられているかチェックする。 (発音できなくても、正しく音素を理解し、ひらがなで表記できるか。そもそも間違っ ていないか) (参考文献 ホームページ：「ネットで学ぶ発音教室」国立特別支援総合研究所)</p> <p>③ サ行音については「ソ」が比較的正しく構音できていたので、まず「ソ」から練習を開始。 ・単音を練習→単語（語頭、語尾、語中）→短文→長文→日常生活の中で→無意識でも可 (参考図書：「構音訓練のためのドリルブック」協同医書出版社)</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>① カ行音については、練習してすぐに改善し、日常生活でも定着した。</p> <p>② 例：「そうじ」の絵を見せて「<u>そ</u>うじ・「<u>し</u>ょうじ」と発音し、どちらが正しいかを判断させる。 →全て正解できたので、発音だけの問題と判明</p> <p>③ 発音の練習では、S インジケーター（soの子音が正しく出れば、針が振れる）に本児は大変興味をもち、単語の発音の確認などに使った。現時点では「ソ」の発音練習は、単語・短文レベルで行っており、本児が意識していれば、かなり正確に発音できるようになった。ただ、本人が気を抜いているときは「ショ」に近い発音になることもまだ見られる。言い直すときは意識するためか、かなり強い呼気で「ソ」を発音している。今後、正確に発音できるようになれば、もう少し弱い呼気でも発音できるように導きたい。</p> <p>※ 発音の練習の前には簡単な「お口のたいそう」「あいうべたいそう」などを並行して行っている。</p> <p>※ 毎回、本児が話したい話題について、会話する時間をとっている。確かに保護者の心配しているように本児の話す内容がよく伝わらない場面はあるのだが、それは発音以外の、語彙数が少なかったり言葉を間違えて覚えていたりすることが大きい。その反面、興味のある事柄については意外に詳しく知っている。また、本児は話したいという気持ちは強く、うまく説明できない場合は黒板に絵を描いて説明をする。今後は、本児の興味のあることから、少しずつ言葉の知識を増やして行ってほしいと保護者と話している。</p>	

小学校	考えを整理し、読みや書きの力を高める指導
-----	----------------------

★対象児童生徒 中学年 (難聴)

★対象児の特徴

- ・分からないことや困っていることを自分の言葉で伝えることができる。
- ・語彙が少なく、文章を書くことに苦手意識をもっている。
- ・物語の読解に慣れておらず、物語のあらすじを順番に並べることが難しい。

★目標

- ・自分の考えを整理して文章に表すことができる。
- ・文と文のつながりを考えて、物語を順番に並べたり、あらすじを考えたりすることができる。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

①文章で説明する力を育てる

「お絵かき作文ドリル」(資料①朝日学生新聞社 坂本聰)を使用。絵を見ていない人にも分かるように、描かれていることを説明する。書く時のポイント(1文は30~40字くらいで書く、など)が記されており、それをヒントにすると書きやすいようになっている。

- (1) 絵をよく見る。
- (2) はじめに全体のイメージを説明する。
- (3) 上から順番に、色、形、様子等を詳しく説明する。
- (4) 書き終わったら音読する。
- (5) 解答例を読み、共通点や相違点を見つけ修正する。



資料①

②物語を順番に並べたり、あらすじを考えたりする力を育てる

- (1) 4コマ漫画(資料②③学校図書 国語4年下「これであなたも作家になれる」抜粋)の構成(起承転結)について知る。
- (2) 4コマ漫画を読み、4コマ目の吹き出しに言葉を入れる。
- (3) 4コマ漫画の1~3コマ目を読み、4コマ目を想像して絵と吹き出しと言葉を書く。
- (4) 4つの絵をよく見て順番に並べ、起承転結を意識して、物語のあらすじを考える。



資料②

[児童生徒の様子、成果]

★文を書く時のポイントが記されていることで、書くことへの苦手意識が軽減し、繰り返し取り組むことができた。文の構造に慣れると、大事なことを落とさずに簡潔な文で表せるようになった。

★絵をよく見たり、起承転結を考えて「始まり→続き→急な変化→終わり」になるように並べ替えたりして、あらすじや吹き出しに入る言葉を考えることができた。



資料③

小学校	自己の障害認識を促し、担任と連携してコミュニケーション力を高める指導
<p>★対象児童生徒 高学年 (感音性難聴)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書が好きで、様々な知識を豊富に持っている。 ・通級の時間では、自分の意見を積極的に伝えることができる。 ・発表時の声が小さく、友達に伝わりにくいことがある。 ・通級の時間では分からないことがあったら聞き返すことができるが、小学校では聞き返すことが難しく、曖昧なままで終わらせることがある。後で、担任に聞きに行くこともある。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞こえにくさによる生活の困難さについて、効果的な支援方法を考える。 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>『読売 KODOMO 新聞』</p> <p>① 新聞を声に出して読み、内容をつかむ (聴覚に関する記事)</p> <p>教員と交代しながら読み、相手に伝わる声の大きさを考えるようにした。また、新聞に載っている機器やコミュニケーション方法についても学習して知識を増やした。</p> <p>② 教員と意見交換をする</p> <p>自分に置き換えて考えたり、自分の実体験と関連付けて考えたりした。</p> <p>『なんちょうりかい (難聴理解) かるた』 発行 / 難聴児支援教材研究会</p> <p>① かるたを通して自分の困難さについて考える</p> <p>かるたの内容が自分に当てはまるか当てはまらないかを判断し、カードを振り分けた。その後、当てはまるカードはノートに書き写し、具体的な場面をノートに書いた。</p> <p>② 解決策を考える</p> <p>具体的に書いた困難さに対して、先生や友達にどのように対応してほしいかを考え、支援方法をノートに書いた。</p> <p>→教室の席順について具体的に話し合った。担任の先生に対応していただき、児童が授業を受けやすいと思う席に替えてもらった。しばらくして再度、席順について話し合った。しかし、自分が良いと思った席では、先生の声や友達の声が十分には聞き取れなかった。より良い場所を、児童の聴力と教室環境をふまえて教員と相談して考えた。</p> <div data-bbox="1193 1122 1334 1312" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1027 1323 1390 1503" data-label="Image"> </div> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★生活の中で困っていることを客観的に振り返ることで、具体的な場面を絞り込むことができ、担任の先生のご協力によって、効果的な支援方法を実践することができた。</p> <p>★担任の先生に協力いただくことによって、児童の困難さに気付くとともに支援についても改めて考えもらうきっかけとなった。</p>	

中学校	自己理解と障害の受容を促し、コミュニケーション力を高める指導
<p>★対象生徒 (聴覚)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 補聴器活用による情報収集やコミュニケーションが可能。外見からは困難さに気付いてもらいにくいいため、卒業後に向けて、自分のことを説明したり、自分から必要な合理的配慮を求めたりするスキルを養う。 コミュニケーション力やメモ力の向上 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて聞き返したり、コミュニケーションツールを活用したりすることができる。 話を聞いてメモを取り、第三者に正確に伝えることができる。 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① 進路先では、自分から必要な合理的配慮を求めて周囲に働きかけていく力が必要になる。なぜ配慮が必要なのか、どのような配慮があれば情報を収集しやすいのか、相手にきちんと伝える力を養うために、まず自分を客観的に見つめなおすところから始めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> マインドマップを書こう…自分を知ってもらおうポイントとなることをどんどん書き広げていく。重なりが多かったところに着目し、自己紹介のキャッチフレーズを考えた。 自分の強みを知ろう…楽しかったことやうれしかったことなどを動詞で付箋に書き出し、thinking、communication、leadership に分類する。付箋が集まったところを自分の強みとして再認識する。 進路先で想定される支援が必要な場面を書き出し、どのように説明すればよいか、紙面上でシミュレーションする。また、行政支援やコミュニケーション支援アプリなどの情報をインターネットで調べ、知っておく。 <p>② 話を聞き取ってメモしたり、新しい言葉を調べたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞記事の切り抜きから、興味のある記事を選択し、先ず教員による読み上げを聞き取ってメモを取る。次に記事に目を通し、聞き漏らしや分からない語句がなかったかをチェックし、不足があればメモに追記する。帰宅後、メモをもとに家族に記事の内容を伝える。 今年の新語や流行語の意味を調べ、まとめる。 <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>① 自分の強みは、様々な面で感覚を受容し、楽しめるところであると再認識できた。希望する進路面にも合っている。現段階ではまだ中学生であることから今後のことを想定しにくく、どのような補聴器購入の助成があるかなど、知らないことも多かった。</p> <p>② 教員とのやりとりの際は、メモを取る手元を見ながらの聞き取りが可能であった。新語など、聞きなれない言葉の聞き取りは教員のほうへ視線を向けて一生懸命に聞いている様子が見られた。防音壁の教室で学習しており、聞き返しなどはなく、聞き取りは良好であった。「スマホシヨルダー」など知らなかった語句をインターネットで調べ、画像を確認することができた。</p>	

